



つくよみ

月讀の 女神うるわし 中秋に
供えし夜は 人肌の酒

令和三年九月二十一日

大中臣正比呂

つくよみのみこと

伊勢では月讀命は男神であるが、古来 食物と夜を統べる女神である。

中秋の観月では里芋や菊酒を供え、秋を感じる時季でもある。

もとみや

月讀神社の元宮は、何と九州の壱岐の島にあるから、月の満ち欠けは確かに漁業の暦でもある。この神社の崎には、「猿岩」が見える砲台がある。

さるいわ

食事の後の夜は男女の癒やしの時間でもあり、人肌の温もりは明日の鋭気

えいき

を養う時でもある。観月の三方に団子を乗せ、里芋を乗せ、供えた盃に

かんげつ さんぼう

うるわしき人を浮かべてみては如何であろうか。